

今号のお題

環境別のストリング設定とストリングセーバーについて

ストリングの

From
テニサーポ
第42回

基礎知識

知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフ向上に役立ててください

今回の解説は...

小笠原爽太(テニスサポートセンター仙川店)

ストリンガー歴、店舗では6年、自宅で張っていた時期を合わせたら12年。現在は大前綾希子選手など、複数のプロ選手の張りを担当する。



Q
プロ選手は、ハード、クレイ、グラスなど、コート別でストリングの設定を変えますか？

(テニス歴3年 / 中学2年男子)

テンションは標高や気温で調整

多くのプロ選手は、ストリングの種類をコート別で変えることはありませんが、テンションについては、コート、天候、標高による気圧の変化などを総合的に考えて設定しています。当店をご利用していただいているプロ選手には、コートよりも標高や気温を重視している選手の方が

多いように思います。

例えば、普段50ポンドでストリングを張っている選手が、標高の高い会場で試合を行なう場合、普段よりもボールが飛ぶことが予想されるため、テンションを2〜3ポンド上げる調整をします。また、気温が高い会場でも同様の調整を行います。標高が高く、気温も高い会場で試合をする場合には、テンションを4〜5ポンド上げる選手もいます。

しかし、これはプロ選手に限った話ではなく、アマチュアの方でも季節の変わり目など気温が上下するタイミングで、テンションを調整することが必要です。ストリングが切れていなくても、ボールの飛びの変化に応じて張り替えることをお勧めします。そうすることで、ストレスなくテニスをプレーできるでしょう。季節の変わり目を目安として、テンションの調整を含めて3カ月に1回はストリングを張り替えるようにしましょう。



気温や標高など環境の変化が大きい場合には、普段より5ポンドほど上げて張ることもある

Q
ストリングセーバーの正しい使い方やメリット、デメリットを教えてください。

(テニス歴20年 / 50歳代男性)

切れ防止には良いが打感に変化

ストリングセーバーは、縦と横のストリングがクロスする場所に挟むプラスチック製の物で、メーカーによって呼び方が違います。国内で一般的に多く取り扱われている商品はエラストクロスやトーナークロスなどがあります。以前サンプル選手が使用していて、話題になったこともあったのですが、使用する目的は性能を上げるためではなく、ストリングが切れるのを防ぐためです。

当然、メリットとしてはストリングがすぐに切れなくなることが挙げられます。デメリットは、ボールと接する部分に付けるので打感が変わってしまう点です。中にはストリングセーバーを付けた打感の方が好きという人もいますが、ストリングが持っている本来の性能や打感を考えると、ストリングがすぐに切れなくする目的以外で使用するのはいまありません。メーカーによって形状などが異なる



ストリング 都市伝説

ラケットのフェイスの大きさによって同じテンションで張っても打感はある？

変わります。同じテンションで張っても、フェイス面積が大きい方が打感は柔らかく感じます。理由は面圧にあります。フェイスが大きいラケットは、面圧が低くなり打感が柔らかくなります。逆にフ

ェイスが小さいラケットは打感が硬くなります。ラケットを新しく買い換える際に、フェイスの大きさを変更する場合は、そのことを念頭に置いてストリングのテンションを決めましょう。

同じシリーズのラケットでも、面の大きさによって打感はある？



お勧めしません。もし打感の変化が気になる場合には、いつもストリングが切れてしまう場所に最小限で使用するようにすれば、打感に与える影響が少なくなるでしょう。